日本フィルハーモニー交響楽団　シンフォニック・エンタテインメント Vol.2

なんと、同級生だった

渡辺俊幸 (右)竹原伸祐

矢野顕子

映画やテレビドラマ、アニメーションなどの音楽を数多く手がけている作曲家の渡辺俊幸がプロデュースと指揮を担当して、オーケストラ・サウンドの魅力を堪能させてくれるコンサート。彼は1979年からバークリー音楽院に留学して、クラシックとジャズの作曲と編曲技法を、さらにボストン音楽院で指揮法を学んだ人。さらにロサンジェルスではハリウッドスタイルのオーケストレーションと映画のための作曲技法を学んできた。アメリカで体験した、ゴージャスで楽しいオーケストラ演奏会を日本でもと、自らプロデュースして開くコンサートなのだ。自作から映画音楽、ショパンやビートルズ作品のアレンジもの、そして交響的幻想曲「能登」を披露してくれる。さらに今回は高校の同級生で、ともにバンドを組んでいたという矢野顕子がゲストで登場。彼女のオリジナルに矢野がオーケストレーションした楽曲を中心に、2人の共演が実現するのだ。矢野の個性的な歌声と透明なピアノが、渡辺によるゴージャスなオーケストラとどんな風に響き合うのだろう。

文:堀江昭朗

★8月29日(日)・東京芸術劇場　●発売中
問日本フィル・サービスセンター 03-5378-5911　http://www.japanphil.or.jp/

インタビュー　久元祐子（ピアノ）

ショパン時代の音が、そこに残っている

「軽井沢八月祭」は避暑地でのひとときを、クラシック音楽三昧で過ごす贅沢な企画。2日間の公演があるが、8/25は「ショパンが愛した音楽、ショパンを愛した人々」をテーマとするコンサート。朝10時30分から夜8時30分まで、途中に1時間ずつ（昼は2時間）の休憩をはさみながら開かれる、1回1時間ほどの5回の演奏が楽しめる。ピアノの野平一郎、東誠三に加え、ヴァイオリンの戸田弥生、チェロの菊地知也、ソプラノの天羽明惠も参加して、ショパンのピアノ作品以外も取り込んだプログラムなのが嬉しい。注目は久元祐子による、ショパン時代に製作（1840年）されたプレイエル社のピアノを使用したリサイタルだ。

「会場の軽井沢大賀ホールは、木を贅沢に使った響の美しいホールですね。演奏するのは初めてです。歴史的楽器のプレイエルにも合うことでしょう。パワーや安定性といった面では、モダン・ピアノに軍配があがりますが、香り立つような繊細な味わいや魅力的な音色があります。楽譜にあるペダルの指示も、ショパンはプレイエル社のピアノをもとに書き込んでいるように、楽器と作品が密接に結びついている。彼が愛した楽器なんですね。ショパンがパリのサロンで弾いた時の音が、この楽器の中に残っているのです」

久元はモーツァルト研究でも知られる人で、その著作も多い。また、クラヴィコードから始まって、ショパン時代のプレイエル社のピアノ（今回使用するのは別の楽器）、創設当時のベーゼンドルファー社のピアノ、リスト時代のエラール社のピアノなども所有。モーツァルト時代のフォルテピアノをはじめ、それらの歴史的楽器での演奏会や録音にも力を入れている。

「でも自分はあくまでもモダン・ピアノの奏者です。さまざま活動の中から得た表現方法を、モダン・ピアノでの演奏で生かしたいと思っています。それにしても、世紀を超えて生き残ってきたオリジナル楽器は、人を惹きつける魅力を持っています。今回のプレイエルはナトリピアノ社さんが所蔵する楽器で、私もよくコンサートで弾かせていただいていますが、どこか懐かしい感じのする魅力的なピアノです。美しい軽井沢の自然の中で、ショパンの響きを楽しんでいただければと思います」

プレイエルで弾く今回のプログラムは、ショパンの作品だけでなく、彼のノクターンに影響を与えたと言われるフィールドの作品も取り入れた。また、他の企画ではモダン・ピアノで登場。ピアノ伴奏による、ショパンのピアノ協奏曲も披露。

「名手との共演は、最高に幸せな瞬間です。かけあいをしたり、とけあったり、というアンサンブルの醍醐味です。この『軽井沢八月祭』は、私も心から楽しみにしているんです」

取材・文:堀江昭朗

軽井沢八月祭　★8月2日(月)、25日(水)・軽井沢大賀ホール　●発売中
問FM軽井沢0267-41-3838　http://www.karuizawa8.com/